

令和6年度 学校経営報告

府中市立四谷小学校

校長 島田 文江

1. 目指す学校・教師

22世紀を見ることになる児童の育成にあたり“令和の学び”を推進する。そのために全ての児童が人格の完成に向け、ふるさと府中に誇りをもち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長していくことを目指した。

めざす学校像は、児童の確かな学力を育てる学校、児童の心身のたくましさを育てる学校、児童の豊かな人間関係を醸成する学校である。**教師は**、目指す学校の実現に向け、心身共に健康で児童に愛情を注ぎ、児童の成長のために環境づくりに努めた。また、希望と誇りをもち、教師同士が切磋琢磨し真摯に学んだ。児童の日常の学びや育ちの場面に“発見・対話・決定・表現”という4つの視点を取り入れ、資質・能力を育成した。この教師集団に、地域・保護者を加えて“ファミリア四谷”として学校経営の具現化に努めた。

ファミリア四谷の合言葉”よつや”の具現化

【教育目標】

☐ 学ぶ**よろこび**

☐ 体験を通した**表現力**育成

☐ 基礎・基本の学力の定着

☐ ふみ出す**つよさ**

☐ 目標に向けた**チャレンジ**

☐ 運動・生活習慣の定着

☐ 人への**やさしさ**

☐ 自他の生命や人権の尊重

☐ **自己調整能力**の育成

【家庭での望ましい支援】

☐ 学びの**習慣化**

☐ **会話・読書**の充実

☐ 家庭学習の習慣化

☐ **つよさを支える**

☐ 早寝・早起き・朝ごはん等

☐ **1日1時間**身体を動かす。

☐ **やさしさの育成**

☐ **幼保から小への入口を重視**

☐ チャレンジを認め、励ます。

【経営努力3項目】

☐ **言語活動の充実**

☐ 校内研究(国語)の推進

☐ 図書室活用の推進

☐ デジタル図書・Web 博物館

☐ **安全安心の徹底**

☐ 生活・交通・災害安全

☐ 知識習得と実践力の育成

☐ 地域、保護者、ボランティア連携

☐ **幼保小中の連携**

☐ 小のカリキュラムを見直す。

☐ 多様な人との関りを重視

☐ ヨツヤキッズセブン活用

2. 今年度の目標と方策

①学力・体力の向上

- 計算・英単語・漢字の指導を通して、基礎的・基本的な知識と技能を習得した。
- 読書やプログラミング学習を通して、思考・判断・表現する能力が高まった。
- 水泳や長縄、ランランランニングを通して運動に親しみ、心身の健康が増進した。
- ヨツヤキッズセブンを繰り返し確認することを通して学習や生活の規範意識が高まった。
- 幼保小や小中、地域や保護者との多様な関りを通して、協働的な学びができた。
- 縦割り班のスマイルひろばの活動を通して、SDGsやボランティアに対する意識が醸成された。

②教職員の資質向上

- 紙とデジタル図書を併用し、言語活動を充実させた。
- 国語「物語文」の校内研究を通して、授業を改善した。
- 授業に関わる具体的な事柄の OJT 研修を通して、人材育成を行った。
- 50 周年記念行事を通して、分掌を超えた協働的な活動を推進した。
- 50 周年記念行事を通して、ファミリア四谷として保護者・地域・学校が組織力を発揮した。

③保護者・地域との連携

- 学校評価や保護者会を通して、保護者・地域の思いや願いを尊重した。
- 家庭における学習や運動の推奨を通して、基本的な学習・生活・運動の習慣を確立させた。
- 地域の自然や歴史の学習を通して、探究的な体験や学習を充実させた。
- 学校ホームページやブログ、Web 博物館を通して、相互の理解促進に努めた。
- チャレンジ検定に、地域・保護者のボランティアの力を借りた。

④府中市教育委員会の教育施策との関連

市政施行 70 周年と本校創立 50 周年にあたり「未来へつなぐ府中2020レガシー」を充実させた。

- 弁護士や院内学級のエキスパートを講師に招き、社会を主体的・創造的に生きる力を育成した。
- 特別支援教室「ひばり」の学習を通し、学びの機会を保障する育ちのための支援を充実させた。
- 中学年から算数少人数指導を行い、個別最適で協働的な学びの充実を図った。
- サポートルームの活動の充実を図り、全ての児童の学びを保証する教育活動を充実させた。
- “就学前後のかけはし期”と義務教育9年間をつないだ学びと育ちを充実させた。

⑤働き方改革の推進

- 校務を精査し、Web 掲示板で情報を共有する等、デジタル化を推進した。
- イクボス宣言をし、“有休のトライ20クリア15”を目指し実現させた。
- 定期的な注意喚起を行い、月の残業時間が 80 時間を超えなくなった。
- 管幹4人が定期的にカリキュラムの見通しと振り返りをし、分掌主任に指導・助言を行った。
- 各分掌主任には、教職員の一人一人に明確な目的意識をもたせ、日常的に改善を図った。
- 新規採用者2名とメンター教員2名をペアにし、日常的な指導・助言ができる関係を作った。
- 教職員には、日々の研究と修養を推奨し、効果的な取組は全校で取り上げた。
- 教職員には、文化やスポーツの研修への主体的な参加を推奨しよりよい人間関係を築いた。